

群 教 セ	G14 - 02
	平 17.230 集

Web形式のマルチメディア教材 「おこしやす京都へ！」の作成と活用

－ 生徒一人一人の学習課題設定の支援に視点を当てて －

特別研修員 田島 浩之 （安中市立松井田南中学校）

（研究の概要）

本研究は、総合的な学習の時間「京都に関する追究学習」において、生徒の興味・関心を高め、学習のねらいに沿って課題を設定することを支援するマルチメディア教材を作成し、その活用方法を検討したものである。本教材では、身近な地域や生活と比較しながら幅広い視点から学習課題を設定させ、修学旅行において課題意識をもって調査や体験などの活動に取り組むことができるようにした。さらに授業実践を行い、有効性を検証した。

キーワード 【総合的な学習の時間 京都 修学旅行 課題設定 マルチメディア】

主題設定の理由

学習指導要領の総合的な学習の時間のねらいについては、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」の二つが示されている。

本校の総合的な学習の時間の第3学年前期内容は、修学旅行の機会をとらえ京都に関する学習課題の追究となっている。ここでは、京都についての自然や歴史、文化、寺社などについて、一人一人が学習課題を設定し、修学旅行において調査や体験などの活動（見学・体験・聞き取りなど）を実施し、帰校後に発表会を行いながら互いの学習課題追究の成果を共有するという学習展開となっている。

しかし、現実的には、生徒にとって京都は遠隔地に存在するため地理観がなく、また、歴史的な知識も断片的であるところから、これまで生徒の設定する学習課題は視野の狭い課題に集中していた傾向があった。また、市販のガイドブックは中学生には難解な解説となっており、画像も少なく、生徒にとっては理解しにくいものとなっている。さらに、インターネット上には様々なWebページが存在し、あふれる情報の中から必要な情報を限られた時間内で収集するということには限界があ

る。このような状況から、修学旅行が学習課題を解決するための位置付けとして十分に機能していない現状がある。

そこで、地形の様子が立体地図で表示され群馬県と比較することができたり、歴史年表からのリンクで京都に関する出来事や人物などの画像や解説を表示することができたりするWeb形式のマルチメディア教材を開発することが有効であると考えた。さらに、見学地の様子が画像や分かりやすい表現で表示されたり、生徒が見学地について調べたり、学習課題を設定する際に学習内容が整理されていて簡単に目的のページを見付けることができたりする教材を作成することで、京都に関する理解や学習課題設定の支援ができると考えた。以上のことから、Web形式のマルチメディア教材を活用して学習課題の設定を支援することにより、生徒が幅広い視点から学習課題を設定することができ、修学旅行において課題意識をもって調査や体験などの活動に取り組むことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間「京都に関する追究学習」において、身近な地域や生活の様子と自然や歴史、文化、寺社などを比較しながら幅広い視点から学習課題を設定することのできる、Web形式のマルチメディア教材を作成し、授業実践を通して教材の有効性を明らかにする。

研究の見通し

総合的な学習の時間「京都に関する追究学習」において、テーマに基づいた画像や情報を分かりやすく整理してWeb形式のマルチメディア教材を作成すれば、学習意欲を高め、幅広い視点から学習課題を設定させることができるであろう。

研究の内容

1 研究の概要

(1) 基本的な考え方

教材の作成方針として、以下のことを考えた。

ア 京都方面への修学旅行に対して課題意識をもてるようにする。

Web教材を活用する中で、学習課題を設定する上でのヒントとなる事柄を文章で例示し、様々な角度から考えられるようにする。

イ 身近な地域や生活から考えさせ、自己の生き方を見つめられるようにする。

自分の住んでいる地域や生活の様子と比較

させたり、伝統文化を築き上げた先人の努力に触れさせたりすることにより、郷土に対する愛情を深めたり、将来の生き方を考えたりすることにつながるようにする。

ウ 必要な情報を探しやすくする。

難解な表現は避け、必要以上に情報過多になり生徒の理解を妨げることをしないよう留意する。

京都に関する学習テーマを「地勢」「歴史」「文化」「寺社」に大別し、教材の内容をこの分類に基づいて構成する。また、目的のページが容易に見付けられるようフレーム構造を採用する。

見学地については地図上に表記し、見所を解説したページとリンクさせることにより、互いの位置関係や京都市街の特色について理解しやすいようにする。

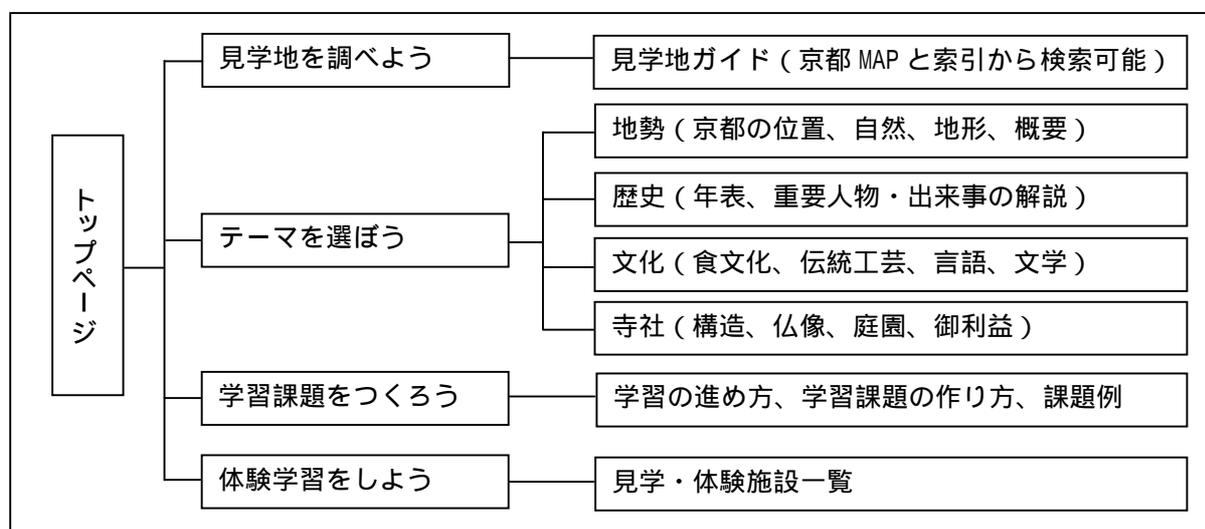
エ 体験的な活動を追究活動の中に取り入れることができるようにする。

見学や体験ができる施設の情報を教材の中に取り入れ、現地での活動に役立たせる。

(2) 教材の構成

教材の構成については、図1のとおりである。

図1 教材の構成



(3) 学習のねらい

本校の総合的な学習の時間における第3学年のねらいは「課題解決的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、他地域との共通点や相違点を見出したり、自己の将来を考えたりする中で、生まれ育った地域のよさを見つめなおさせ、郷土に貢献しようとする意識をもたせる。」である。

(4) 教材の活用方法

第3学年「京都に関する追究学習」では、生徒自らが学習課題を設定し、文献やインターネット、修学旅行での体験的な学習などを通して追究結果をまとめ、互いに成果を発表し合い学び合うという課題解決的な学習過程になっている。全16時間の授業の中での本教材の活用場面は表1のとおりである。

表1 教材活用場面

段階	学習活動	時間	活動への支援
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 京都について抱えているイメージや疑問点、知りたいことなどを発表し合い、学習の目当てをつかむ。 本教材や観光マップ、書籍などを利用して見学地の概略をつかむ。 身近な地域や生活の様子と関連させながら個人の学習課題を設定する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 「見学地を調べよう」のページで見学地の見所や位置関係を概観させる。 「テーマを選ぼう」のページや学習課題設定のためのヒントを参考にさせながら、追究内容を焦点化させる。 「学習課題をつくろう」のページを参考に学習課題の作り方を説明する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の追究のためには、修学旅行においてどのような調査・体験的な活動を取り入れたらよいか班で話し合う。 追究からまとめまでの見通しを持ち、学習計画を立てる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 班編成（同種の学習課題で編成）や班別行動コースの決定については、学級活動の時間を活用する。 「体験学習をしよう」のページを活用させ、活動意欲をもたせる。
収集	<ul style="list-style-type: none"> 本教材や書籍、インターネットなどを活用して必要な情報を集め、現地で収集する情報を明確にする。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 「見学地を調べよう」や「テーマを選ぼう」のページを活用させる。
< 修学旅行 >			
分析考察	<ul style="list-style-type: none"> 現地で得た情報も分析・考察しながらコンピュータ（プレゼンテーションソフト）など効果的な発表方法を考えてまとめる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を常に意識させながらまとめさせ、筋道の通った発表ができるようにさせる。
表現交流発信	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題追究の成果を互いに発表し合い、様々な角度から追究活動を振り返る。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来について考えさせたり、郷土のよさを再確認させたりする場面を意図的に設ける。

2 研究の内容

(1) トップページ

トップページ（図2）の画面左側のメニューから各ページが表示できるようにした。

図2 トップページ



(2) 各ページ

生徒の関心や活動意欲を引き出し、身近な地域や生活を意識して幅広い視点から学習課題が設定できるように工夫した点は次のとおりである。

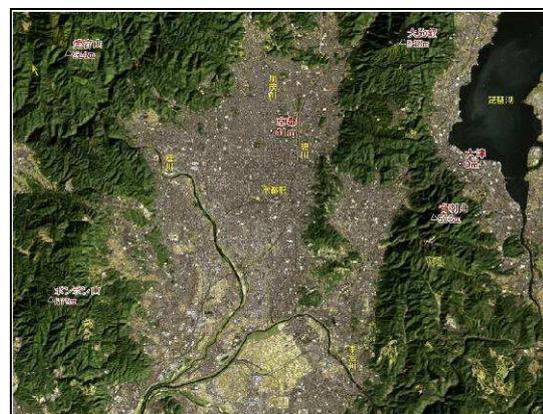
ア 身近な地域や生活とのかかわりの中から学習課題をとらえさせる工夫

「テーマを選ぼう～地勢～」のページでは、群馬県と京都府の日本における位置を示し、同心円を描いて距離や相対的な位置関係をとらえさせるようにした（図3）。また、京都市や群馬県周辺の衛星画像を用意し、地形の特色について比較させながら学習課題をとらえさせるようにした（図4）。

図3 京都府の位置



図4 京都市衛星画像



イ 必要な情報を分かりやすく提示する工夫
「見学地を調べよう」のページでは、京都市内

の様子を概観しやすいように京都MAP（図5）を作成するとともに、索引のページも用意し、五十音順に配置された一覧からも見学地を調べられるようにした。見学地の説明のページ（図6）は、分かりやすい言葉で表現し、情報過多にならないように配慮した。

図5 京都MAP



図6 「見学地を調べよう」のページ

鹿苑寺金閣
(ろくおんじきんかく)

<http://www.shokoku-j.or.jp/kinkakuji/>

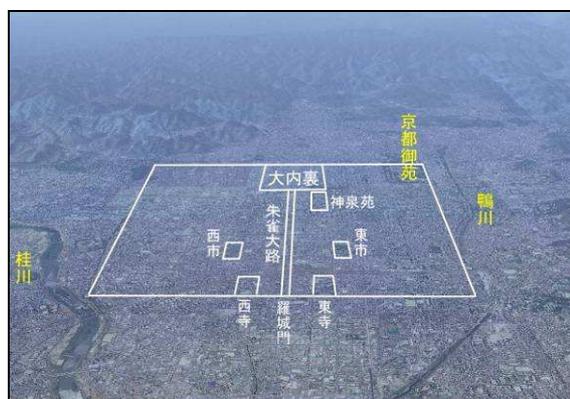
拝観時間	9:00~17:00
拝観料	一般400円, 小・中学生300円
建立	1397年(応永4年)(室町時代)
宗派	臨濟宗相国寺派

室町幕府3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)が完成させた。義満の死後、建物は他に移され、あまの(は)降雷で焼失、金閣は残った。山王は、義満の命で鹿苑寺(ろくおんじ)となった。平成6年(1994)、文化財として世界遺産に登録された。金閣は、昭和三十二年(1950)に一青年僧によって焼かれたが、同30年(1955)再建された。

県や岩手県と同じくらいの距離にあることに驚きを感じていた。また、図4からは京都市が周囲を山に囲まれた盆地であることが分かり、地形や自然の様子に興味をもった生徒もいた。

また、京都市は平安京の歴史を色濃く残す都市であることを理解させるために、フリーソフト「カシミール3D」で作成した京都市立体地図を活用した（図7）。これは、「大内裏」のあった場所や京都駅の場所を予想してクリックすると平安京の範囲が表示されたり消えたりする仕組みになっており、生徒はクリックを繰り返しながら平安京と現在の京都市との位置関係を理解していった。

図7 平安京の位置



次に、京都MAP（図5）をもとに、見学地調べを行った。印をクリックすると見学地の説明のページが表示されるようになっており、生徒は画像や解説を見ながら見所を調べていった。活用したワークシートは「京言葉」で表記し、「地方独特の言葉」について関心を高めるようにした。

図8 教材を活用している様子



3 実践の結果と考察

(1) 授業実践の方法

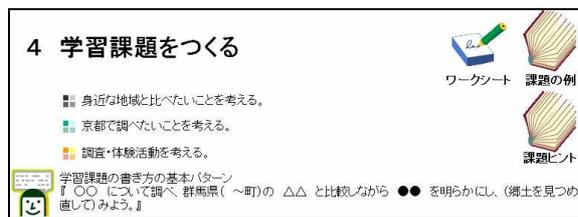
本教材は第3学年を対象に作成したものであるが、本年度は学習が終了しているため、第2学年2学級46名の生徒を対象に「学習課題を設定する段階」まで4時間の授業実践を行い検証した。

(2) 実践の概要

まず、京都を概観させるために、「テーマを選ぼう～地勢～」のページを活用し、「京都府と群馬県の位置関係」「自然や地形の特色」などについて学習を行った。生徒は京都府が群馬県からみて秋田

学習課題設定の段階では、まず、「学習テーマを選ぼう」のページを活用させ、「地勢」「歴史」「文化」「寺社」の各テーマの中から、自分が一番興味をもったものを追究するテーマとして選ばせた。そして、各テーマにリンクしているページを閲覧させ、設定のためのヒントを参考にさせたり、インターネット上のWebページ、ガイドブックなどを見せたりして追究内容を焦点化させた。次に「学習課題をつくろう」のページ(図9)を活用しながら学習課題の設定の仕方について説明した。

図9 「学習課題をつくろう」のページ



次に、学習課題の例(図10)を提示し、これまでに生徒の学習課題によく見られた「～について」という漠然としたものではなく、追究内容がより明確になるような学習課題になるよう指導した。生徒は、学習課題には様々な種類があることを知り、自分の追究内容をどの形式にあてはめたらよいか真剣に考えていた。

図10 学習課題の例(一部抜粋)

1	事実追求型の課題	対象とするものか何なのかを調べ、明らかにしていくタイプの課題
1	「銘菓『ハチ橋』について調べ、群馬県の名産品と比較しながら、作り方や生み出された背景について明らかにし、味を守る努力をしてきた人々の気持ちにふれてみよう。」	
2	経過追求型の課題	対象とするものがどんな歴史的経過をたどってきたかを調べ、明らかにしていくタイプの課題
2	「振興の町並みについて調べ、群馬県に残る宿場町と比較しながら、景観がどのように守られてきたのかを明らかにし、郷土の遺産を将来に残すために自分たちができることについて考えてみよう。」	
3	疑問解決型の課題	疑問に思っていることを調べ、解決していくタイプの課題
3	「『清水焼』の制作を体験し、身近な焼き物と比較しながら、なぜ京都に伝統工芸が発達したのかを明らかにし、技術を後世に伝える努力をしてきた人々の気持ちにふれてみよう。」	
4	未来予想型の課題	現在の様子を調べ、未来がどうなっていくかを予想して明らかにしていくタイプの課題
4	「京都の都市計画について調べ、前橋市の街づくりと比較しながら、近代化都市を目指したら古都はどのように変化していくかを明らかにし、理想の街づくりについて考えてみよう。」	
5	意志決定型の課題	もしもの場合を想定し、理由を述べながら自分の気持ちを明らかにしていくタイプの課題
5	「山や川など京都の自然の様子を観察し、群馬県の自然と比較しながら、その特色を明らかにし、将来生活するとしたらどちらに住みたいかを考えてみよう。」	

学習課題の表記の仕方は、「～について調べ、群馬県(～町)の～と比較しながら～を明らかにし、郷土を見つめ直してみよう。」を基本文型とし(図9)、生徒に具体的な学習課題を設定させた。その際は、総合的な学習の時間のねらいに迫るために、身近な地域や生活を意識させるように

した。しかし、内容によっては身近な地域や生活と関連させることが難しいものもあり、その際は、人物などの生き方に焦点をあて、自己の将来に役立つような学習課題を設定させるようにした。

(3) 結果の考察

ア 幅広い視点から学習課題の設定ができたか。
本教材活用前に生徒が京都について調べたいと思っていた内容は「お寺について」など漠然とした内容が多く、「特別にない」と答えた生徒も13名いた。それに対して、教材を活用して学習課題を設定させたところ、具体的な20種類の内容が挙げられ、全員が学習課題を設定することができた(表2)。また、学習課題に取り上げる内容として、最終決定する前に、三つ以上の内容を候補として取り上げていた生徒が38名いた。

以上のことから、本教材において、テーマに基づいて画像や情報を分かりやすくまとめて提示したことにより、生徒が幅広い視点から学習課題を設定することができたと考える。

表2 教材活用前後の生徒の関心の比較

活用前に調べたいと思っていたこと
〔地勢0〕
〔歴史9〕・人物5・新撰組2・城2
〔文化8〕・食物5・方言2・清水焼1
〔寺社16〕・寺社15・庭園1
〔特になし13〕
活用後に生徒が設定した学習課題の内容
〔地勢4〕・自然・動植物・地形・川
〔歴史11〕・人物5・新撰組2・城2
・世界遺産・平安京
〔文化16〕・方言6・ハチ橋5・京扇子2
・清水焼・文学作品・古い町並
〔寺社15〕・建築様式6・寺社の歴史4
・庭園2・御利益2・仏像

注:表内の数字は人数

イ 身近な地域や生活とのかかわりから学習課題の設定を行っていたか。

本教材活用後の生徒対象アンケート調査結果では、「身近な地域や生活を意識しながら学習課題の設定ができたか」との問いに対して、20名が「大変意識した」(図11)と答えている。多くの生徒が身近な地域や生活と関連させながら学習課題を設定していたが、内容によっては関連させること

が難しいものもあり、学習課題の中に取り入れることのできなかつた生徒が6名いた。生徒が設定した学習課題の一例は表3のとおりである。

図 11 身近な地域や生活を意識しながら学習課題の設定ができたか

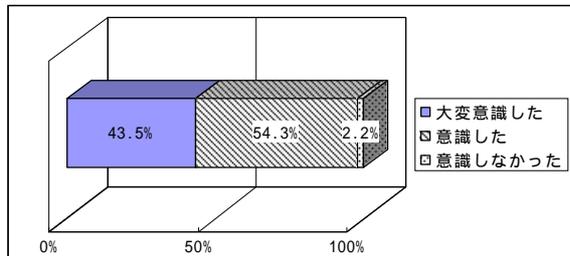


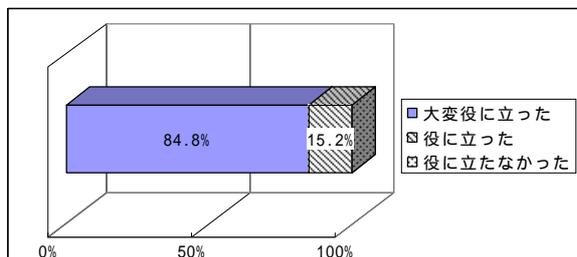
表3 生徒の設定した学習課題の一例

- ・京都のお菓子について調べ、身近な和菓子と比較し、味を守る努力をしてきた人の気持ちにふれる。
- ・京都の神社について調べ、妙義神社と比べながら構造の特徴を明らかにする。

ウ 教材の内容や使い方は分かりやすかったか。

「学習課題の設定に本教材が役に立ったか」との問いに対して、39名が「大変役に立った」と答えている(図12)。特に、内容については38名が「大変分かりやすかった」と答えており、画像を取り入れたり、分かりやすい言葉で表現したりして内容を構成したことで、生徒の理解が深まったのではないかと考える。

図 12 学習課題設定に教材が役に立ったか



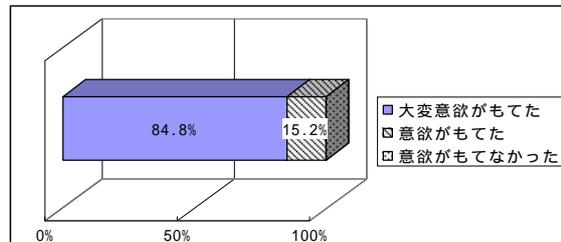
エ 学習課題追究に意欲をもつことができたか。

「興味・関心を生かして学習課題を設定することができたか」との問いに対して、全員が「はい」と答えている。また、「修学旅行に、調査・体験的な活動を位置付けられたか」との問いに対して、44名が「はい」、2名が「いいえ」と答えている。

「今後の学習課題追究に意欲をもつことができたか」との問いに対しては、39名の生徒が「大変意欲をもつことができた」、7名が「意欲をもつことができた」と答えている(図13)。

以上のことから、本教材を活用させ、様々な視点から追究内容を吟味し、焦点を明確にした学習課題を設定させたことで、追究の見通しをもつことができ、意欲も高まったのではないかと考える。

図 13 今後の学習課題追究に意欲がもてたか



研究のまとめと今後の課題

本研究では、総合的な学習の時間における「京都の追究学習」において、学習意欲を高め、幅広い視点から学習課題を設定することを目指して、Web形式のマルチメディア教材「おこしやす京都へ!」を作成し、活用させることを通して、その有効性を検証した。画像や情報を分かりやすくまとめたことで京都への関心を高めることができ、学習課題設定のためのヒントを与えながらテーマに基づいて京都を概観させることで、幅広い視点から学習課題を設定することができた。また、必要最小限の情報を教材に取り入れたことで生徒の調べる余地を残し、現地での活動意欲を促すことができた。しかし、身近な地域や生活と関連させにくい学習課題もあり、それらをどのように工夫して設定させていくかが今後の課題である。

< 参考・引用文献 >

- ・『京都・奈良社寺文化施設一覧』古都観光連盟(2003)
- ・『京都班別行動』日本移動教室協会(2002)

< 使用ソフト >

- ・カシミール3D Ver8.6.7
- ・白地図 Ken Map Ver8.0
- ・IBMホームページビルダー Version 8

(担当指導主事 小池 千秋)